

退院後の「ちょっと心配」にお答えします

体格のこと



「保育園のクラスの中で一番小柄です。いつかは追いつくのかな？」

早産児の体の成長は、正期産児に比べてゆっくりです。生まれた体重が小さいほど平均値に追いつくのに時間がかかるので、慌てずに本人の成長を待つことになります。(→早産児の成長曲線 P28～29 参照)

発育に影響を与える合併症がない限り、通常は3歳ごろまでに体格が追いつきますが、3歳の時点で小さい場合は、それ以降も小柄のまま成長することが多いようです。身長がなかなか追いつかないお子さんの中には、成長ホルモンによる治療が可能な「SGA 性低身長」のお子さんもありますので、主治医に相談してください。

発達のこと



「早産で生まれたので後遺症が心配です」

修正年齢で発達を評価し、気になる場合は早期療育を開始します

早産児、特に出生体重 1,500g 未満では、運動障害や知的障害の合併頻度が高いことが知られています。発達の過程は個人差が大きく、あとから追いついてくる子もいれば、成長とともに遅れが目立ってくる子もいます。乳児期から幼児期前半にかけての発達は、出産予定日から数えた年齢（修正年齢）に置き換えて考えます。周りの子と比較するのではなく、お子さん自身の伸びや良いところをちゃんと見つけられる“目”を養いましょう。

- 33週で突然破水した時は目の前が真っ暗になったけれど普通分娩で産まれてきた我が子を誇りに思います。1,800g ちょっとですが、早産で生まれてくる子には強さが伴っています！「早くママに会いたかっただね」と病院の方々に言われ、本当にそうなんだと思います。成長は周りの子たちより遅いけれど、長く赤ちゃんの期間を味わえるねー！と楽しんでいます。大人が思うよりずっと赤ちゃんは強いです。我が子を信じていれば大丈夫です。(33週 1,849g 出生、現在2歳)

療育支援について

フォローアップ外来では、2～3歳ごろまでは主に運動発達や言語発達を中心に評価します。

体のつっぱりや運動発達の遅れを認めた場合は早めに療育センターへ紹介し、リハビリテーションを含めた支援を開始します。言葉の発達が遅い場合は、聴力を評価した上で、お子さんが楽しい経験をたくさんできる関わり方をアドバイスしています。スマホの動画を長時間見せても決して言葉は増えません。絵本の読み聞かせや、お散歩など家族と一緒に過ごす中でお話ししたい気持ちが育っていきます。

発達の遅れが気になるお子さんに対して、保育園で支援員などを検討することもできますので、医師や市町村の相談窓口へ相談してください。(→各市町村相談窓口 P61)



「落ち着きがなくて、保育園でも集団行動ができていないみたい」

保育園に入り集団生活が始まると、自宅では目立たなかった“困り”に気づくことがあります。コミュニケーションがうまく取れない、落ち着きがない、集団行動が苦手、こだわりが強い、偏食などは発達障害でみられる特徴ですが、発達障害の症状は幅広いため、早い時期に診断を断定することは容易ではありません。一方で、早産児は自閉スペクトラム症 (ASD)、注意欠如・多動症 (ADHD) などの発達障害が高率に合併することが知られています。

気になる症状がある場合は、地域の子育て支援センター、家庭児童相談所、保健センター、発達障害者支援センター、療育センターなどで子育て相談や療育相談を行なっています。かかりつけの小児科医や3歳健診などの機会に保健師や医師に相談しても良いでしょう。過度に心配しすぎる必要はありませんが、子どもの特性に早くから気づき、特性にあった関わりをすることで、子ども自身が生き生きと生活することが期待できます。

(相談先→市町村、沖縄県発達障害者支援センター P61)

- 生まれた時は抱っこもできず、鳴き声もあまり聞けず、看護師や医師たちがバタバタと赤ちゃんを処置していて、何事か……と不安やら産んだことの安心感やいろいろな複雑でした。NICUに行くついでと保育器に入っていて、あんな小さい体にいろいろな機械をつけて「ごめんね…」しか出なかった。毎日毎日不安な日々でしたが、赤ちゃんは毎日毎日頑張っていて泣いている。自分に怒りました。赤ちゃんはすごいです。絶対に！とは言えませんが、大丈夫です。赤ちゃんは強いです。がんばっているのは赤ちゃんです。退院までできることを親は頑張らないとです。カンガルーケア、めっちゃ幸せです。(27週、910g出生、現在6歳)

目のこと



「将来、視力は大丈夫？」

早産児は斜視、弱視、近視、白内障、緑内障などの合併が多く、未熟児網膜症の定期検査が終了したあとも、長期的な経過観察が必要です。学童期になってから症状が悪化するものもあります。言葉のやり取りが上手になる3歳ごろにはおおよその視力が把握できるようになるでしょう。小学校で困らないように、就学前にメガネの必要性を評価しましょう。

歯のこと



「乳歯が生えるのが遅いし、歯が黄色いです」

早産児のフォローアップ外来では、「乳歯の生える時期が遅い」「生える順番が異なる」「癒合歯（2本の歯がくっついている）」など、歯に関する相談が多いです。中でも乳歯が黄色く変色してこぼこした形になる「エナメル質形成不全」は高頻度で見られます。歯の表面のエナメル質が弱いため、虫歯になりやすく注意が必要です。また、口や顎が小さい子が多いため歯並びが悪くなることもあります。近隣の歯科で相談し、早い時期から虫歯予防に努めましょう。

- 退院するのに1カ月ぐらいかかると言われたけど、大きく育ってくれて早めに退院することができてよかった。(33週、2,056g出生、現在1歳)
- 生まれてすぐ抱っこすることもミルクをあげることもできず、周りのお母さんたちが羨ましかったし、すごく不安でいっぱいでした。でも毎日少しずつできるようになることが多くなり、不安が一つ一つ喜びに変わっていきました。(34週、1,804g出生、現在8歳)